

平成 28 年度調査結果を踏まえたゴマシジミの
確認状況等の見直し

(調査結果部分の変更)

資料 1-10

準備書 5-5-24, 38, 42 ページ

iv. 奈川のゴマシジミ確認状況

現地調査で確認されたゴマシジミの個体数とワレモコウの株数を表 5.5-15 に示す。

ゴマシジミは、対象事業実施区域周辺では、平成 27 年に G1 で 1 個体が確認されたのみであった。一方、対象区 G4 では、平成 27 年に 6 個体、平成 28 年に 5 個体が確認された。

ワレモコウは、対象事業実施区域周辺では、G1 で 70 株前後（平成 27 年及び 28 年）、G2 で 0 株（平成 27 年及び 28 年）、G3 で 654 株（平成 28 年）が確認され、対象区 G4 では 170 株前後（平成 27 年及び 28 年）確認された。

対象事業実施区域周辺のうち G1 でゴマシジミの生息が確認されたが、対象区に比較して密度は低かった。また、ワレモコウは対象事業実施区域周辺のうち、G1 及び G3 で生育しており、特に G3 で密度が高かった。

なお、奈川地区地域づくりセンターへの聞き取りにより、奈川地区ではゴマシジミ保全のためのワレモコウ移植活動を地域住民と一体となって行っていること、G3 は過去にはゴマシジミの発生地であったが、現在はほとんどいないこと等の情報を得た。

表 5.5-15 ゴマシジミの個体数とワレモコウの株数

調査ルート	調査年	ゴマシジミ個体数			ワレモコウ株数			
		個体数	密度/ha	平均密度/ha	株数	密度/ha	平均密度/ha	
対象事業実施区域周辺	G1	平成 27 年	1	0.6	0.3	76	43.4	41.2
		平成 28 年	0	0.0		68	38.9	
	G2	平成 27 年	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0
		平成 28 年	0	0.0		0	0.0	
	G3	平成 28 年	0	0.0	0.0	654	491.7	491.7
	対象区	G4	平成 27 年	6	8.3	7.6	168	233.3
平成 28 年			5	6.9	178		247.2	

注：平成 27 年は G3 での調査を実施していない。

(予測部分の変更)

表 5.5-17(10) 注目すべき種の間接的影響予測結果

分類	和名 (科名)	一般的生態	確認状況	予測結果
	<p>ゴマシジミ本州中部亜種 (シジミチョウ科) 奈川のゴマシジミ</p>	<p>北海道、本州、九州に分布する。年1回の発生で、一般的には8月上～中旬頃が最盛期である。日当りの良い草原に発生するが、北日本を除いて発生地は山地帯に限る。ワレモコウ類の花穂に産卵、幼虫は花穂の内部に食入り生育、4齢になると地上に降り、クシケアリに運ばれてその巢中に入る。以後幼虫はクシケアリの卵・幼虫を食べて生育する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予測地域では、平成27年にG1でゴマシジミ1個体が確認されたのみ。一方、対象区G4では、平成27年に6個体、平成28年に5個体が確認された。 ・ 予測地域のゴマシジミ生息密度は、対象区に比較して低かったが、ワレモコウの生育密度は特にG3で高かった(654株)。 ・ 聞き取り情報：奈川地区ではゴマシジミ保全のため、ワレモコウの移植活動を行っている。G3は過去のゴマシジミ発生地、現在は安定した発生地ではない。 	<p>建設機械の移動及び資機材運搬の工事車両の走行に伴う騒音・振動の影響がおよぶ範囲において、本種の生息が確認された。2箇年の調査で1個体のみ確認であり、生息密度は低かったが、幼虫の食草であるワレモコウの生育密度が高いこと、当該地区ではワレモコウの移植等の保全活動が行われていること、過去のゴマシジミ発生地として知られていることから、生息状況の変化によっては、対象事業実施区域周辺の利用の忌避により、ワレモコウ及びハラクシケアリをめぐる個体間の競争が高まるなど間接的影響が生じる可能性があるとして予測される。</p>

(環境保全措置部分の変更)

5.5.3 環境保全措置の検討

本事業の実施にあたっては、できる限り環境への影響を低減させることとし、表5.5-18に示す環境保全措置を講ずる。なお、希少猛禽類の繁殖に配慮した環境保全措置の詳細を表5.5-19に示す。

表 5.5-18 環境保全措置

影響要因	環境保全措置	環境保全措置の内容
工事実施 ・ 工事前仮設備の設置 ・ 工事敷の造成 ・ 鉄塔基礎設置部の掘削 ・ 樹木の伐採 ・ 工事用車両の走行 ・ 建設機械の稼働	希少猛禽類の繁殖に配慮した工事工程等の調整	<ul style="list-style-type: none"> ・ 営巣箇所、高利用域、営巣中心域と対象事業実施区域との関係から、繁殖に影響を与える可能性があるとして予測された希少猛禽類のつがいについて、繁殖期の工事中断、工法の変更、工程の調整等、できる限りの対策を行う（詳細は表 5.5-19 に示す）。
	追加調査の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象事業実施区域周辺に生息する希少猛禽類の内、繁殖の可能性が考えられるものの営巣地が特定されていないつがいを対象に調査を実施する。 ・ 営巣地の特定後は、追加に必要な環境保全措置について検討する。 ・ 上記調査の中で、対象としていない希少猛禽類の営巣地が確認された場合は、追加に必要な調査及び環境保全措置について検討する。
	奈川のゴマシジミ生息地の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事車両の運搬路のうち、奈川のゴマシジミ生息地の林道については、徐行区間と定め、ゴマシジミの忌避を抑制する。 ・ 工事関係者及び作業員に対して、対象事業実施区域外への不用意な立入りを行わないよう指導し、工事車両の空ぶかしや急発進等による騒音の発生を抑制するよう指導する。 ・ 対象事業の実施により消失するワレモコウについて、生育に適した環境に移植を行い、ゴマシジミ生息環境の保全を図る。移植は花芽が出る前の5月頃に行う。 ・ ワレモコウの移植に際しては、事前にアリの生息調査を行い、できる限りハラクシケアリの生息地付近を移植地とする。
工作物の存在 ・ 電線路の存在	白樺峠からの視認(猛禽類の渡り)に配慮した工事工程等の調整	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家の意見から、猛禽類の秋の重要な渡りルートとして全国的に知られる白樺峠からの観察者の視認に配慮し、白樺峠から概ね 5km の範囲に計画する鉄塔について、以下の保全措置を行う。 ・ 影響が大きいと考えられる基礎工事、組立工事、ヘリコプター運搬は、渡り期間にあたる9月～11月中旬の期間を避けた工事工程とする。 ・ その他の工種についても、可能な限り9月～11月中旬の期間を避けた工事工程とする。 ・ 一部工程の調整が不可能な鉄塔については、設備撤去や道路整備等の地上部での作業とし、低騒音型機械を使用して作業を行う。
	緑化復元	<ul style="list-style-type: none"> ・ 樹木の伐採等により現状を変更した区域の内、鉄塔敷以外の区域については、現存植生の復元を目指した緑化を行う。樹種は伐採した樹木の中から代表的な種を選定し、地権者の了解を得た上で植樹する。